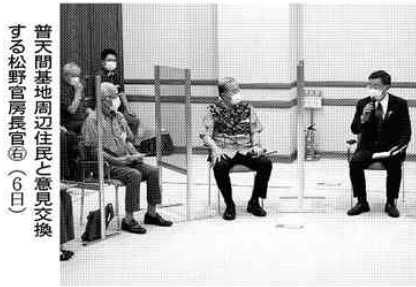


# 沖縄3選挙、基地移設占う

## 来年に名護市長選・参院選・知事選



普天間基地周辺住民と意見交換する松野官房長官(6日)

与野党が沖縄の選挙に力を入れた。2022年は県知事選と参院選に加え、米軍普天間基地の移設に関わる名護市長選が集中する。先の衆院選は14年以降の主要選挙で初めて自民党の得票率が移設反対派の「オール沖縄」を上回った。地殻変動のなかで3つの選挙を迎える。

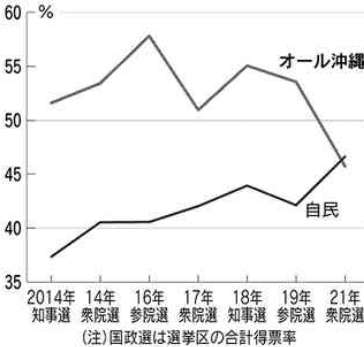
松野博一官房長官は6日、沖縄県庁で玉城デニー知事と面会した。一日米同盟の抑止力の維持と、普天間の危険性の除去を考え合わせた時、辺野古移設は唯一の解決策だと伝えた。

オール沖縄と連携する玉城氏は移設反対派だ。移設に関して「直ちに中断してほしい」と訴えた。松野氏が衆院選後、真っ先に公務で訪問するのは沖縄に同県を選んだのは沖縄

## 衆院選の自民得票率 反対派を上回る

普天間基地移設を巡る経緯と今後の政治日程	
2013年12月	仲井真知事が辺野古埋め立て承認
14年11月	知事選で辺野古移設反対派の翁長氏当選
15年10月	翁長知事が埋め立て承認を取り消し
16年12月	承認取り消しは違法との最高裁判決確定
18年9月	知事選で翁長氏後継の玉城氏当選
12月	政府が辺野古沿岸部への土砂投入開始
19年2月	埋め立ての賛否を問う県民投票で反対7割
20年4月	軟弱地盤改良のため政府が県に移設工事の設計変更を申請
22年1月	名護市長選
夏	参院選
秋	知事選

オール沖縄の得票率は自民系を下回った



を重視する姿勢を強調するためだ。念頭には3つの選挙と辺野古移設がある。まず重要になるのは工事の権限に関わる首長の選挙だ。22年1月の名護市長選まで3カ月を切っている。辺野古の地元で自公などが支援する現職と移設反対を掲げる市議が争う構図とされる。前名護市長の稲嶺進氏は

は辺野古に流れる川の流路の変更工事を認めなかった。18年に現職に代わり、ようやく21年に流路の工事が始まった。反対派が市長に就けば再び止まるとみられる。22年は秋に知事選がある。知事は埋め立てや設計変更を承認する。13年に仲井真弘多知事が埋め立てを承認したものの、その後には就いた移設反対

派の翁長雄志知事が取り消した。翁長県政は国との訴訟が続いた。夏は参院選がある。移設推進派と反対派のどちらが勢いをもつかはその後の県知事選も占う。3選挙を控えて、与野党が目指すのは10月31日に投票した衆院選だ。自民党が4選挙区を2勝2敗で終え、12年衆院選以来となる小選挙区での複数議席を得た。

衆院選での得票率も自民党がオール沖縄を上回った。オール沖縄の勢力が結果した14年以降、自

民党は衆院選、参院選、県知事選を通じて得票率で負け続けていた。今回の衆院選で反転攻勢の兆しが見えた。衆院選に関してオール沖縄内では「新型コロナウイルス」が注目の的。ウイルス対策などに注目が集まり、辺野古移設が争点になりにくかったとの分析がある。

自民党からは「移設に反対する玉城県政に対して県民は『沖縄振興予算を十分確保できない』と

不満を持っているはずだ」との声も漏れる。県内の開発などに使える振興予算は22年度概算要求で10年ぶりに3000億円を下回ったためだ。年末に決定する22年度予算案で振興予算が3000億円を下回れば、玉城氏を支援するオール沖縄には痛手となる。移設への対応で予算が増減するようには映るから。今回、松野氏が沖縄を

訪ねたのも振興予算を巡る調整の布石だ。13年には当時の菅義偉官房長官が自公系の首長や国会議員がいる方が政権との関係を生かして振興予算の確保につながる、と訴える見込みだ。

移設反対派は体制の立て直しを急ぐ。先の衆院選前にはオール沖縄の支え手だった企業が離反し、結果に結びが生じた。県内では「経済界が離れたオール沖縄は単なる革新共闘だ」との指摘も出ている。

参院選は13、16、19年と野党が議席を維持した。知事選は現職の玉城氏が出馬を明言しているが、オール沖縄内では知名度の高い同氏の再選に期待する声がある。(奥山美希、児玉章吾)